熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター

年　　報

第２号

２０１１

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター

序　　文

文学部附属永青文庫研究センターは、肥後銀行、熊本放送文化振興財団からはもとより、新たに熊本全日空ホテルニュースカイ、山本建設株式会社、九州産業交通ホールディングス株式会社等から、温かいご支援を頂きながら２年目を迎えました。私たちスタッフ一同、皆様方のご支援を決して無駄にしないため、細川家文書の目録作成のみならず、熊本県立美術館と共同で、「細川幽斎と信長・秀吉・家康」、「細川幽斎の古典研究」等の講演、その他、表千家同友会、熊本経済同友会、熊本県文化財保護協会、九州博物館協議会、熊本県民カレッジ、熊本市歴史文書資料室等々の依頼を受けて、平成22年度は４月から11月まで、実に13回もの講演を実施しました。

これらの活動の傍ら、平成22年５月１日、永青文庫叢書第１巻『細川家文書中世編』を吉川弘文館から出版しました。これは極めて詳細な収録資料編年目録17ページを含む、総367ページに及ぶ大作です。専門書でもあり、それほどの売れ行きも期待できないだろうとの予想のもと、700部印刷したのですが、これが大反響を呼び、現在はほとんど完売状態という、うれしい誤算でした。平成23年３月１日には、永青文庫叢書第2巻として『絵図・地図・指図編Ⅰ』を同出版社から、総カラーで出版いたしました。

平成23年度の活動計画としては、1）永青文庫資史料目録作りとデータベース化、2）永青文庫叢書第３巻『細川家文書近世初期編』の出版等を挙げております。スタッフもこれまで同様の顔ぶれですが、平成23年度には新たに特定事業研究員を１名採用予定にしております。新たに人員を増強することで、本研究センターの活動がますます活発になることは間違いないでしょう。

このように、永青文庫研究センター発足の初期の目的である、「永青文庫資料群の価値を一部の研究者だけの宝とせず、日本国中に公表してこれを役立ててもらう」という精神はいまだに堅持しております。なにとぞ今後とも文学部附属永青文庫研究センターに対し、みなさまの暖かいご支援を、心よりお願い申しあげます。

平成23年３月１日

熊本大学文学部長
大　熊　　薫

目　　次

序文…… 1

1．センターの年間の活動…… 4

2．年間活動報告…… 12
　古文書・古記録研究部門…… 12
　絵図地図研究部門…… 13
　有職故実研究部門…… 14
　文学・文芸研究部門…… 15

3．講演会の記録…… 16
　永青文庫研究センターの活動（要旨）…… 16
　細川幽斎と天下統一（要旨）…… 19
　細川幽斎の古典研究（要旨）…… 21

4．研究ノート
　細川幽斎の学芸活動に対する一視点…… 22
　細川幽斎奥書竹原惟成筆『闕疑抄』のこと…… 25

5．研究員の年間活動…… 29

1．センターの年間の活動

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成22年３月１日 ～５日	中国史研究者グループ永青文庫史料見学 文学分野集中調査	６名
平成22年３月９日	熊本日日新聞取材	浪床（熊日） 稲葉
平成22年３月16日	出版校正	山田（県美） 稲葉
平成22年３月18日	熊本日日新聞取材	浪床（熊日） 稲葉
平成22年３月19日	①東京国立博物館「細川家の至宝」について ②NHK 番組「日曜美術館」	
平成22年４月２日	幽斎連載について	熊本日日新聞
平成22年４月５日	スタッフミーティング	稲葉
平成22年４月６日	県文化課と打合せ	センタースタッフ
平成22年４月７日	荒尾市史編纂委員会来訪（写真資料の調査）	小田課長（県庁） 元島課長補佐（県庁） 会計担当、丸山（県庁） 甲元
平成22年４月９日	NHK「日曜美術館」撮影 幽斎連載取材	高橋（NHK） 稲葉 藤本・浪床（熊日） 稲葉
平成22年４月12日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年４月13日	NHK 報道局取材	稲葉
平成22年４月14日	県美山田氏来訪	稲葉
平成22年４月16日	幽斎連載について	藤本・浪床（熊日） 稲葉
平成22年４月19日	東京国立博物館「細川家の至宝展　珠玉の永青文庫コレクション」内覧会出席 信長文書・センター紹介コーナー前にて稲葉教授が説明等を行った。	細川護熙理事長（永青文庫） 大熊文学部長 甲元・稲葉

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成22年４月21日	基金運営委員会	大熊文学部長 甲元・稲葉
平成22年４月23日	幽斎展（仮称）打合せ	山田（県美） 稲葉・森・高濱
平成22年４月26日	スタッフミーティング 平成23年度特別経費打合せ 熊本県文化課からの経費削減通告に対する打合せ センター運営委員会 ①21年度事業報告と決算報告 ②22年度事業計画と予算承認 ③安徽大学の部局間協定	センタースタッフ 財務課課長 北村・中村・益田（人文総務）・甲元・稲葉 北村・中村・益田（人文総務）・甲元・稲葉 大熊文学部長 岩岡社文研科長 入口図書館長 丹下（文学部教授） 北村（人文総務） 中村（人文総務） 甲元・稲葉・森・吉村
平成22年４月27日	幽斎連載について	藤本・浪床（熊日） 稲葉
平成22年４月28日 ～29日	出版挨拶	甲元 稲葉 谷口学長
平成22年４月30日	学長記者懇談会 学長面談	大熊学部長 甲元 稲葉 大熊学部長 甲元
平成22年５月１日	吉丸氏と打合せ	甲元
平成22年５月６日	肥後銀行、小堀氏へお礼と細川家文書中世編贈呈	大熊文学部長 北村（人文総務）・甲元
平成22年５月７日	幽斎連載について	藤本・浪床（熊日） 稲葉
平成22年５月９日	打合せ	八代市立博物館学芸員 熊本県立美術館学芸員 稲葉
平成22年５月10日	スタッフミーティング	センタースタッフ

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成22年５月11日	撮影機材購入についての打合せ	江上（カマノ写真館） 稲葉 高濱 藤本
平成22年５月13日	平成22年度予算について	予算担当者（県庁） 中村（人文総務） 益田（人文総務） 甲元
平成22年５月14日	幽斎連載について	藤本・浪床（熊日） 稲葉
平成22年５月17日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年５月18日	鶴屋総会講演	森
平成22年５月19日	朝日新聞熊本支局取材	稲葉
平成22年５月20日	概算要求打合せ	北村（人文総務） 稲葉
平成22年５月21日	幽斎連載について	藤本・浪床（熊日） 稲葉
平成22年５月22日	熊本ルネッサンス講演会	森
平成22年５月24日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年５月26日	朝日新聞熊本支局取材・書庫撮影	稲葉
平成22年５月27日	九州博物館協会講演	稲葉
平成22年５月29日	講座　細川コレクション「細川家分家の深層を探る」講演	吉村 県立美術館
～31日	公益財団法人永青文庫へ資料収集 特別経費申請ヒアリングに出席	稲葉 北村（人文総務） 文科省
平成22年５月31日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年６月４日	熊日文化部取材	稲葉
平成22年６月７日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年６月８日 ～14日	ボルドー第三大学にて講演・資料収集	稲葉
平成22年６月16日	熊大通信取材	稲葉 桑野（熊大通信）
平成22年６月21日	スタッフミーティング	センタースタッフ

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成22年６月22日	熊大通信取材	稲葉 桑野（熊大通信）
平成22年６月25日	幽斎展打合せ	稲葉 山田（県美）
平成22年６月28日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年７月１日	部局長貴重書庫案内	甲元 川口 各局部局長
平成22年７月２日	熊日取材	稲葉 浪床（熊日）
平成22年７月５日 ～６日	スタッフミーティング 資料撮影（絵図）	センタースタッフ 藤本 江上（カマノ写真館）
平成22年７月８日	部局長貴重書庫案内	甲元 川口
平成22年７月12日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年７月14日	資料撮影（絵図）	藤本 江上（カマノ写真館）
平成22年７月16日	熊本日日新聞取材	稲葉 藤本・浪床（熊日）
平成22年７月18日	公開講座 講演「戦国時代の益城郡」	放送大学 北野 稲葉
平成22年７月20日	講演「細川家の女性」	歴史文書資料室 川口
平成22年７月26日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年７月27日 ～30日	永青文庫（東京目白）にて絵図の調査・撮影	北野 藤本 江上（カマノ写真館）
平成22年８月２日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年８月４日	打合せ	稲葉 福田（熊日）

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成22年８月６日	熊日取材	稲葉 藤本・浪床（熊日）
～12日	文学分野調査	
平成22年８月９日	吉丸理事来訪	甲元 稲葉
	スタッフミーティング	センタースタッフ
	資料撮影（絵図）	藤本 江上（カマノ写真館）
平成22年８月11日	東大史料編纂所との共同研究事業について打合せ	稲葉 東大史料編纂所
平成22年８月18日	西原村にて講演	稲葉
平成22年８月19日	甲佐の講演について打合せ	稲葉
平成22年８月20日	甲佐町にて講演	稲葉
平成22年８月23日	細川幽斎展図録の打合せ	稲葉 高濱 徳岡 山田（県美）
	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年８月27日	熊日取材	稲葉 藤本・浪床（熊日）
平成22年８月30日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年９月２日	講演「よみがえる熊本城」	北野 百周年記念館
平成22年９月１日	学術交流協定の締結について	稲葉
～16日	史料学・歴史社会論の比較研究会の開催について	大熊（文学部長） 安徽大学（中国）
平成22年９月６日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年９月13日 ～15日 ～17日	永青文庫（東京目白）にて絵図の撮影・調査 歴史文書・冊子集中調査	藤本 江上（カマノ写真館） 稲葉・川口・後藤 松本寿三郎（元熊大教授） 一般参加者9名・院生1名
平成22年９月24日	熊日取材	稲葉 藤本・浪床（熊日）

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成22年９月27日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年９月30日	熊日取材	稲葉 藤本・浪床（熊日）
平成22年10月４日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年10月９日	講座　細川コレクション 「細川幽斎と信長・秀吉・家康」講演	稲葉 県立美術館 聴講者100名
平成22年10月17日	細川幽斎公没後400年記念シンポジウム 基調講演「細川幽斎と天下統一」 講師　稲葉継陽教授 パネルディスカッション「武人文人　幽斎」 パネリスト　小高道子氏（中京大学教授）、細川佳代子氏（認定ＮＰＯ法人スペシャルオリンピックス日本名誉会長）、吉岡博之氏（舞鶴市社会教育課長兼郷土資料館長）、稲葉継陽教授	鶴屋東館７階ホール 一般聴講者　500名
平成22年10月18日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年10月19日	貴重書庫案内	文科省人事課長 甲元
	吉丸理事と打合せ	甲元
平成22年10月22日	永青文庫セミナーについて取材	藤本・浪床（熊日） 稲葉 高濱
平成22年10月25日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年10月30日	第五回永青文庫セミナー「永青文庫所蔵の信長文書の魅力」講師　稲葉継陽	放送大学熊本学習センター講義室 一般聴講者：150名
平成22年11月2日	寄附金・助成金贈呈式に出席 永青文庫史資料整備事業として、センターの研究活動のために寄附金（30万円）を御寄附頂いた。	（株）熊本放送 小堀富夫（熊本放送文化振興財団） 大熊文学部長 甲元
平成22年11月５日	日蓮宗大集会講演	稲葉 吉村
平成22年11月８日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年11月11日	文化財保護協会大会講演	甲元

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成22年11月12日	熊本ロータリークラブ卓話にて講演	稲葉
平成22年11月15日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成22年11月17日 ～18日	資料撮影	江上（カマノ写真館） 藤本
平成22年11月19日	熊本日日新聞論説委員研修会　講演	稲葉
平成22年11月23日 ～25日	正伝永源庵所蔵品の調査（京都）	山田（県美） 稲葉
平成22年11月27日	講座　細川コレクション 「細川幽斎の古典研究」講演	森
平成22年11月29日 ～12月３日	歴史文書・冊子集中調査	川口・後藤 松本寿三郎（元熊大教授） 山口・小宮（東大史料編纂訂） 一般参加者９名
平成22年12月６日	スタッフミーティング 学長と面談	センタースタッフ 谷口学長
平成22年12月７日	22年度報告・23年度計画等	大熊文学部長 北村（人文総務） 甲元
平成22年12月17日	京都文化博物館での永青文庫展示について	横山（京都文化博物館） 高濱
平成22年12月20日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成23年１月６日	センター運営委員会 ①平成22年度活動報告について ②平成23年度活動計画について ③研究員の雇用について ④平成23年度センタースタッフについて ⑤その他	大熊文学部長 岩岡社文研科長 入口図書館長 丹下（文学部教授） 北村（人文総務） 中村（人文総務） 甲元・稲葉・森・吉村
平成23年１月17日 ～21日	スタッフミーティング 歴史冊子集中調査 東大資料編纂所　山口氏・木村氏参加	センタースタッフ 稲葉・川口・後藤 松本寿三郎（元熊大教授） 一般参加者7名・院生2名

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成23年１月21日	細川幽斎の連載書籍化　最終打合せ	稲葉 藤本（熊日） 浪床（熊日）
平成23年１月24日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成23年１月25日 ～26日	出版物校正と研究打合せ	吉川弘文館 藤本
平成23年１月28日	細川幽斎の連載書籍化について	稲葉 藤本（熊日） 浪床（熊日）
平成23年１月31日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成23年２月８日	今村氏来訪・雇用についての打合せ	今村（名古屋大学） 甲元
平成23年２月14日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成23年２月28日	スタッフミーティング	センタースタッフ
平成23年３月７日 ～11日	歴史冊子集中調査 9日より東大資料編纂所　山口氏・木村氏参加	稲葉・川口・後藤 松本寿三郎（元熊大教授） 一般参加者名・学生名
平成23年３月７日	スタッフミーティング	
平成23年３月８日	熊本文化協会会長小堀富夫氏へ出版挨拶	甲元・北野・藤本
平成23年３月10日 ～11日	永青文庫叢書『　細川家文書　絵図・地図・指図編Ⅰ』出版挨拶	永青文庫 吉川弘文館
平成23年３月14日	スタッフミーティング	
平成23年３月15日	肥後銀行及び吉丸永青文庫理事出版挨拶	大熊学部長・甲元
平成23年３月28日	スタッフミーティング	

2．年間活動報告

古文書・古記録研究部門

川口恭子・稲葉継陽・吉村豊雄・長井勲・内山幹生

1．調査カードの記入

2010年度は、附属図書館貴重書庫に収蔵されている歴代藩主関係文書、及び藩政関係史料群等について、文化庁調査官の指導を踏まえて確定した調査カードに、データを記入する作業を実施した。作業は技術補佐員による日常の活動と、４回にわたって実施した集中調査によって約16,000点が作成された。

対象とした歴史資料の内訳は以下の通りである。

(1) 藩主書状群
(2) 細川忠利達書群
(3)「上書」(家臣団政策提言集)
(4) 藩政関係一紙文書群（分類記号「神雑」、「密書集録」等）
(5) 藩政関係冊子群
(6) 家譜類
(7) その他

2．カード情報の電子データ化

上記（2）の初期藩主達書群、及び初期藩主決済文書群、家臣団起請文群、幕藩関係文書群等について、調査カードに入力した情報をエクセル・ファイルに入力して電子データ化する作業を実施した。作業は2010年５月から2011年３月まで、約6,000点を完了した。

なお、これは下記４の出版事業の準備をも兼ねた作業である。

3．『永青文庫叢書　細川家文書 中世編』の出版と関連事業

2010年４月、中世文書260点を写真入りで収録した『永青文庫叢書　細川家文書 中世編』を出版し、同書は2011年２月に熊日出版文化賞を受賞した。

なお、同書の出版に関連して、以下の事業を推進した。

(1) 熊本日日新聞紙上への連載
　2010年４月23日から10月５日まで24回にわたって連載された、熊本日日新聞文化部による「幽斎と信長」に協力し、最終回に稲葉が寄稿した。
(2) 熊本日日新聞社刊『幽斎と信長』刊行への協力
　上記連載をまとめる形で熊本日日新聞社から刊行される『幽斎と信長』について、稲葉が編集等に協力した。

4．細川幽斎没後400年関連事業の共催

文学分野（森、徳岡）と共同して、以下の事業を共催した。

(1) 熊本県立美術館との共催「没後400年・古今伝授の間修復記念 細川幽斎展」
　展示品の選定及び図録原稿の執筆（稲葉、森、徳岡）、講演等（稲葉、森）を行った。

(2) 熊本大学附属図書館との共催「第27回貴重資料展 若き日の細川幽斎」
　企画、展示資料の選定、解説目録の執筆、付随する講演、広報協力等を行った（稲葉、森、徳岡、高浜）。

5．『永青文庫叢書　細川家文書 近世初期編』の出版準備

本センター出版の三冊目の叢書として、2012年３月の刊行を目指し上記の出版準備を進めた。本書は細川忠利授受文書等（達書、決済文書、家臣団起請文）を集成するものとして企画し、目録作成及び写真撮影を完了させ、収録文書の選定及び翻刻文の作成を進展させた。

絵図地図研究部門

北野隆・藤本豊治

2010年度は、『永青文庫叢書　細川家文書　絵図・地図・指図編　Ⅰ』(2011年３月１日発行）の編集作業が主な活動であった。編集作業としては、掲載資料の選定、資料の写真撮影（デジタルおよび４×５ポジ）と色調補正、編年、解説の執筆、原稿のレイアウト、校正などを行った。また、東京の財団法人永青文庫に存在する資料の調査・撮影および出版の打ち合わせのため、東京へ７月27～30日と９月13～15日の２回出張した。さらに、最終校正のため、吉川弘文館と印刷所へ１月25～26日にかけて出張した。そして、本書が2011年３月１日付発行で出版されることになった。この第Ⅰ巻は、永青文庫に約1,000点余蔵されている地図・絵図・指図（建築平面図）の中から、「細川家の領国の変遷とその景観と建築」をテーマに、168点を選び以下のように構成した。

本書の構成は、まず細川家が肥後に入国した寛永９年（1632）で「細川家肥後入国以前」と「細川家肥後入国以後」に分けた。「細川家肥後入国以前」は、「山城・丹後在国期関係」と「豊前在国期関係」に分け、「山城・丹後在国期関係」は７点、「豊前在国期関係」は７点を選んだ。「細川家肥後入国以後」は、資料の内容から「江戸」と「熊本藩」に分けた。「江戸」に所在したものが32点で、この内18点が幕府関係で、14点が熊本藩の江戸屋敷である。「熊本藩」では、熊本に所在したものを60点、熊本より北部地方に所在したものを23点、南部地方に所在したものを25点選んだ。そして、豊後国の熊本藩領に所在したものを14点選んだ。総点数は168点である。

第Ⅰ巻に掲載された絵図・地図・指図の特徴は、次のようなことが挙げられる。

(1) 近世初期のものが数多く見られることである。特に全国的には西暦・1700年（和年号・元禄、享保）以前のものは少ないが、寛永２年（1625）の「小倉城御図」、元和・寛永期頃の「山城嵯峨図」、寛永５年（1628）の「豊前国宇佐宮之図」、寛永10年（1633）の「寛永之頃と相見候龍口御屋敷之図」、享保２年（1717）の「此御屋敷ハ龍口ニ而享保之初比ニ而茂可有之候哉」、寛永16年（1639）の「此御屋敷ハ芝ニ而寛永末頃ニ而茂可有之候哉」、寛文11年（1671）の「戸越御屋敷惣差図」、寛永11年以前（慶長期頃）の「平左衛門元屋敷家御材木覚帳」などが存在する。
(2) 熊本藩の江戸屋敷や国許屋敷は、近世初期より幕末までの指図が残り、江戸時代を通して、その変遷を追うことが出来る。

(3)「肥後入国以後」の「熊本藩」関係では熊本城・八代城やその城下町、熊本藩内の在町や農村など全域の景観をはじめ、武家屋敷、御茶屋、寺院、神社、町屋、農家、名所旧跡など各種・各階層の絵図・指図が掲載されている。

なお、2011年度は、『永青文庫叢書　細川家文書　絵図・地図・指図編　Ⅱ』（2013年３月刊行予定）の編集作業が考えられる。永青文庫には、第Ⅰ巻に掲載した資料のほかに「国絵図・合戦図・参勤交代関係図・鎖国関係図」など重要な絵図が蔵されている。第Ⅱ巻では「徳川幕府の成立と藩領国支配について」をテーマに200点位を選んで、出版する予定である。

有職故実研究部門

高濱州賀子

本年度は、主に杉部屋に収蔵されている資料のうち、有職故実・芸能・美術工芸関係資料を調査、分類していく作業を行った。

杉部屋収蔵の資料は特に貴重なものが多く、歴代藩主の手元に置かれていた資料類や文学や美術の貴重資料も含まれている。ところがその収蔵形態のうち、各種の箱に一括して入れられた資料群が少なからず存在する。これは昭和39年に北岡邸の土蔵から熊本大学附属図書館に寄託されたときに運ばれた際の原状を留めたものと考えられる。北岡邸の土蔵は、御神庫・御宝蔵・河端御蔵・七間御蔵・御文庫の五つの蔵があり、それぞれの蔵から移された道具箱の一部は当初の姿のまま今に至ったものであろう。

大小様々な形態の箱には、多種類の資料が混在している。例えば一つの箱に、藩主書状、奥方や御連枝などの消息類、藩主筆書画類、謡本や仕舞付、道具付など各分野に渉る資料が含まれる。当センターの目録作成の過程において、各研究部門に係るこれらの混在資料群を明確に分類するため、箱ごとにデジタル写真化をはかることにした。箱ごとの全体データが基本にあり、ここから各分野の目録に切り分けていくことで、目録の完全性が担保できると考えている。

上記の方法でデジタル撮影していった資料のうち、本部門で目録化したものは現在408件である。そのうち特に史料的価値が高いと思われるのが細川幽斎関係の武家故実書群であった。

本年度は幽斎没後400年にあたる。各地で関連の事業や出版がおこなわれ、当センターでも熊本県立美術館との共催による「細川幽斎展」や熊本大学附属図書館貴重資料展「若き日の細川幽斎」などの事業を行う。これらの展覧会に出品した故実関係資料はこれまであまり紹介されることのなかったものである。このうち『室町家式』は江戸幕府に引き継がれたため特に有名である。さらに重要なのが『幽斎公御筆　故實書礼之記』と箱書のある九冊本であろう。これらはほぼ、藤孝（幽斎）が永禄９年（1566）～10年頃、足利義昭に供奉して越前などに滞在中に書写蒐集されている。幕府再興のため活動している時期にこうした武家儀礼や殿中故実の記録が蒐集されたこと、また室町幕府の儀礼を担っていた申次衆とその伝承過程が知られるなど、本書によって明らかにされることは少なくない。

文学・文芸研究部門

森正人・徳岡涼

文学関係の典籍類は、2004年度より、国文学研究資料館の文献調査として、年に２～３回の集中調査を中心に実施してきた。2010年度も継続してのものである。

調査に際しては、事前に、未調査を示す付箋（和紙に赤のポスターカラーで着色したもの）を挟み、対象となる典籍をリストアップし台帳をつくる。調査が終了し次第、緑のポスターカラーで着色した付箋に換える。

調査は、附属図書館２階の教員研究室で行う。フォーマットは、国文学研究資料館規定の細目カードを使用する。「写本・刊本の別」、「外題」「内題」「柱」「整理番号」「刊写年次」「残存状況」「保存状態」「箱・帙・袋などの数と材質」「蔵書印」「序跋、年次、序跋者」「編著者等」「表紙」「絵」「書き入れの有無、別筆か否か」「用字」「刊記・奥書・識語・極札・箱書・広告など」の項目である。

本年度は、以下の通り３回に渡って集中調査を実施した。

＊第19回　永青文庫和漢書集中調査　８月６日・９～12日
　調査点数　186点（藩主事蹟27　文学12　系譜69　記録78）
　参加者：森・徳岡・山田・堀畑正臣（熊本大学・教）・屋敷信晴（熊本大学・文）・鈴木元（熊本県立大学・文）・米谷隆史（同）・川平敏文（九州大学・文）・小川剛生（慶應義塾大学・文）

＊第20回　永青文庫和漢書集中調査　11月29日・12月1～3日
　調査点数　115点（記録81　系譜20　目録14）
　参加者：森・徳岡・山田・堀畑正臣（熊本大学・教）・鈴木元（熊本県立大学・文）・米谷隆史（同）・小川剛生（慶應義塾大学・文）

＊第21回永青文庫和漢書集中調査　２月28日・３月１～４日
　調査点数　133点（系譜18　有職故実20　文学６　記録75　法帖14）
　参加者：第19回に同

その他、以下のような活動も行った。

＊熊本県立美術館共催『細川幽斎展　没後400年・古今伝授の間修復記念』平成22年10月６日～12月19日の展示典籍の選択、図録掲載の論文・キャプションの執筆。森・徳岡

＊第27回熊本大学附属図書館貴重資料展『若き日の細川幽斎』平成22年10月30日～11月１日の展示典籍の選択。パンフレットのキャプションの執筆。森・徳岡

＊『前田尊経閣文庫目録』『内閣文庫目録』『静嘉堂文庫目録』『大東急記念文庫目録』『伊達文庫目録』などを参照しながら、カード分類と、データーベース化。徳岡・山田

＊平成20年に調査済みの巻物形態の資料について、紐で一括されていたものを、紐をほどき中性紙の箱に入替。徳岡

3．講演会の記録

1）熊本県文化財保護協会大会講演

平成22年11月11日

永青文庫研究センターの活動（要旨）

甲元眞之

公益財団法人永青文庫に所蔵されている資史料は、近世大名として熊本藩主細川家に蓄積され、廃藩置県のおり一部が県に委譲された後、明治22年の「市制・町村制」の施行に伴って細川家に返還されたもので、永く妙解寺川端の土蔵に保管されていた。昭和38年その土壁が壊れたことで大量の文書類が「発見」され、当時細川家の御当主であった護貞氏と熊本大学教授松本雅明先生の昵懇な関係から、熊本大学附属図書館に寄託されることとなった。そこで森田誠一先生を中心として４万３千点に及ぶ文書の目録作成がなされ、爾来、細川藩研究の基本的資史料として供されてきた。

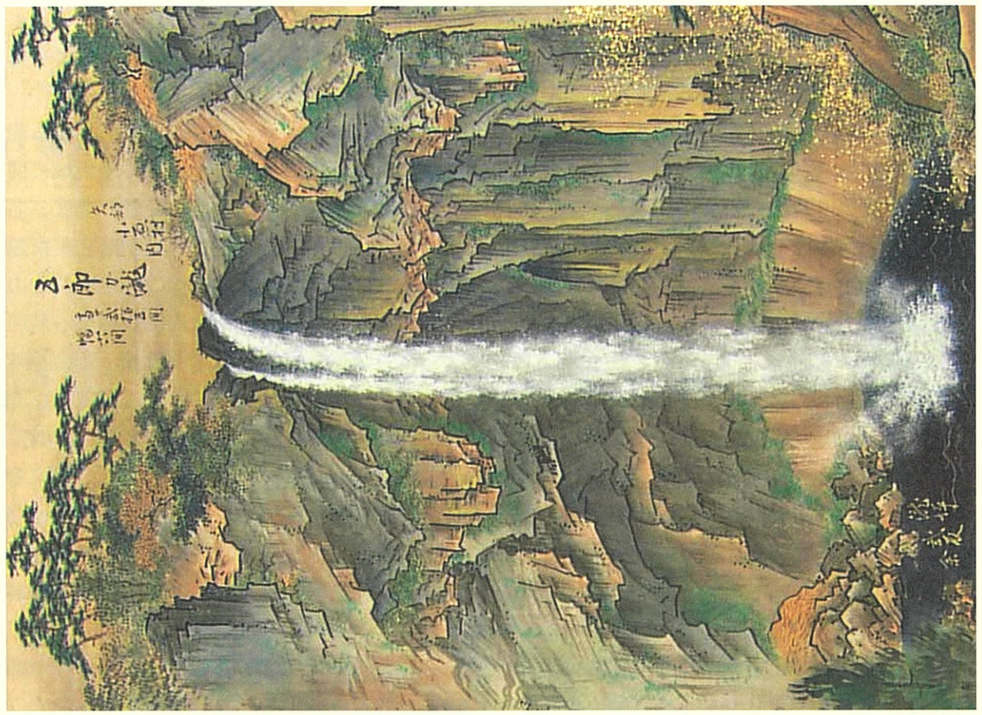
熊本大学文学部附属永青文庫研究センターは、熊本県や地元財界の支援のもと、熊本大学附属図書館に寄託されているこれら細川家文書の詳細な目録作成と重要資史料の翻刻出版を通してそのもつ歴史的意義を明らかにするとともに、国宝や重要文化財指定に向けての取り組みを行って国民の共有財産とすべく、平成21年4月に設立された。日常は「文書・記録・編纂物研究部門」、「絵図・地図研究部門」、「有職故実研究部門」、「文学・文芸研究部門」に分掌して、細川家文書の詳細な目録作りと電子データ化を推進するとともに、『永青文庫叢書』として『細川家文書　中世編』を刊行し（吉川弘文館、平成22年）、今年度は『絵図・地図・指図Ⅰ』を鋭意編集中である。今後は『細川家文書　近世初期編』『絵図・地図・指図編Ⅱ』『有職故実』と毎年度ごとの重要典籍の編集発行を企画している。

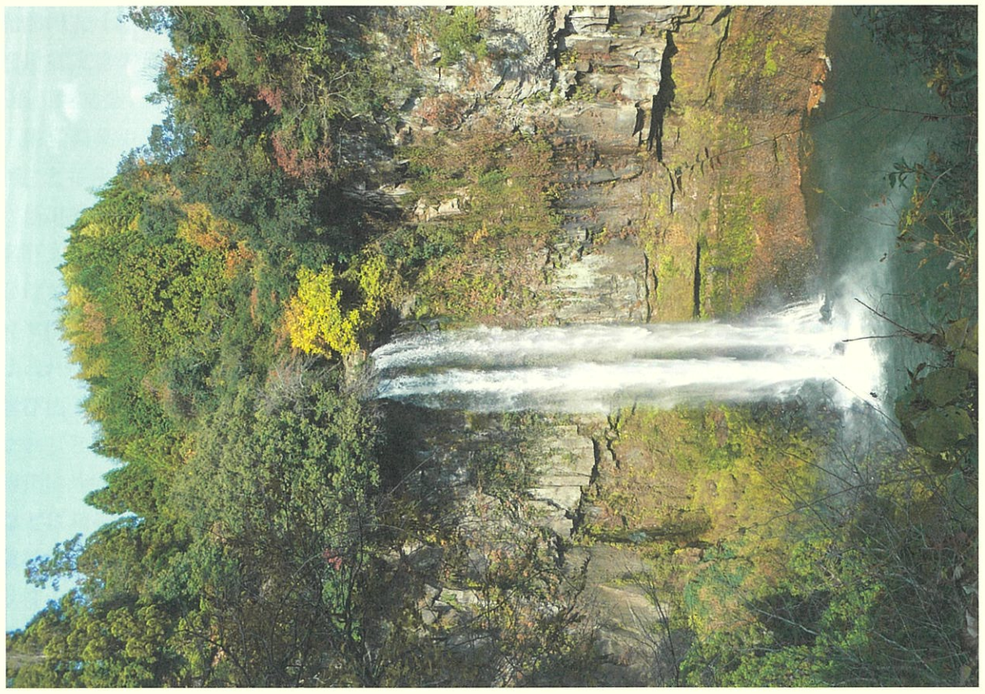
細川家中興の祖である細川幽斎公は、和泉上守護家を受け継いで足利将軍の近習として仕え、室町文化の中に息づく公家・武家文化を継承・集大成するとともに、戦国後期から江戸初期にかけての社会的仕来りを具現化した武将でもあった。『室町家式』は足利将軍の近習の間で代々伝えられた「申次記録」を家康の求めに応じて提出したもので、江戸時代初期の儀式典礼はこれによるところが多かった。あたかもそれは漢の張良が秦の阿房宮から法令儀式の記録を運び出して劉邦に提出したことと重なり、「馬上で天下を取っても馬上では治めることができない」という現実に基づく。近世大名は戦国時代の土豪の出もおり、毛利・島津にしても鎌倉時代に地頭として任官され土着化したものであったために、全国的規模での社会統合の仕来りなどに精通した家は少なかった。幽斎公を継いだ忠興公は九州に入封後、宇佐神宮や英彦山、薦神社、布刈神社など神社仏閣などに寄進することが多かったが、それらにみられる建築手法は桃山様式であり、細川家は伝統として都の文化的趨勢を常に認識していたことが窺われ、ここに中世と近世の架け橋としての細川家の歴史的役割が認められるのである。

18世紀の中頃、重賢公の時期に「宝暦」の大改革を行い、対外的な事象は従来の家老クラスで担当するものの、藩内の行政は下級武士や有力農民などを官僚に登用してこれに任せることとなった。このために前例主義を建前とする官僚制の下で膨大な資史料が蓄積することとなる。熊本大学附属図書館に寄託された細川家文書の大半はこの時期以降に属するものである。

こうした細川家文書類の中で「町在」などの住民褒章記録は、県下の市町村史を編集する際に大いに利用されてきた。しかし細川家文書の中にはこれ以外にもまだまだ数多くの地域に関連する資史料が認められる。「絵図」などは、城郭や武家屋敷ばかりでなく、町屋や農家、名所旧跡など他藩では見られない独特なものが含まれている。『領内名勝図巻』（熊本県立美術館寄託）全15巻の絵巻物もそうした貴重な資料の一つである。肥後細川家第８代の藩主斉茲公の命を受けて、矢野良勝と衛藤良行が描いた作品で、18世紀末葉の細川藩の領内に点在する名勝が雪舟流のタッチで見事に表現されている。そのうちいくつかの描かれた滝を訪れると、往時と殆ど変らない状況がみてとれる。この『領内名勝図巻』は重要な文化財にあたるだけでなく、そこに描かれている実際の滝のいくつかは、国の名勝に値する素晴らしい状況に保たれている。このように細川家資史料を使うことで、景観という分野でもその地域の特性を全国に発信することが可能になる。

膨大な細川家資史料もこのように現代に生かす試みを通して、国民の共有財産に昇華させることも求められているのである。この点において、細川家資史料の取り扱いは地域住民と直接に接する市町村の担当者の双肩にかかることが大きいことは言うまでもない。現在の熊本県文化課では市町村要望を最大限取り入れて、その支援を積極的に行う姿勢のもとにあり、今が細川家資史料を現在に活用する絶好の機会となっていると言えるであろう。





写真右：『領内名勝図巻』の五郎ヶ滝図（公益財団法人永青文庫提供）、左：現在の五老ヶ滝（平成22年11月写）

2）細川幽斎 没後400年シンポジウム基調講演

平成22年10月17日

細川幽斎と天下統一（要旨）

稲葉継陽

Ⅰ

幽斎は室町将軍や織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕え、戦国時代が終わって江戸時代へと移る天下統一の時代を生き抜き、大きな働きをした人物だ。

戦国時代は、戦争状態が日常だった。ところが、天下分け目の関ヶ原の戦いが起きた西暦1600年を境に、それまでの内戦や対外戦争がストップし、天草・島原一揆を例外とすれば、200年以上にわたって長期平和が継続する。この江戸時代の「天下泰平」は、世界の歴史の中でも特殊で、日本の近代に大きな影響を及ぼすことになる。

この平和状態は徳川幕府が圧倒的な武力と富を集中して大名や民衆を抑え込んで維持されたわけではない。江戸時代になると、武士領主と百姓との武力行使による殺し合いが凍結され、日本列島にひしめき合っていた260もの大名家も、武力発動を相互に抑制する体制がつくられる。「天下惣無事」と言い、この過程での幽斎の動きが注目される。

Ⅱ

室町幕府に仕えた家と学者の家との間に生まれた幽斎は、将軍の家臣になる運命と、学問をする条件とを併せ持っていた。室町幕府が非常に不安定な時期になると、幽斎は15代将軍となる足利義昭と信長を結び付けて連合政権の確立と幕府の再興に奔走。義昭と信長の決裂期には将軍を捨てて信長の家臣となる道を選び、細川家は江戸時代の大名家として生き残っていく。

一方、織田家臣として活躍した時代は、武士領主と一揆衆が血で血を洗う激しい時代で、日本の歴史の中でも極めて特殊な10年だったと言える。私流に位置付ければ、江戸時代の長期平和状態を支えた領主・百姓の契約的関係が築かれる前提として経験せざるを得なかった時代だった。

Ⅲ

幽斎は丹後時代、武士領主と百姓との安定した関係を作るため、早い段階で石高制に基づく新たな支配システムを取り入れている。これも一揆との壮絶な戦いの最前線でやってきたことから得られた成果だと思う。

一方、信長が本能寺の変で倒れると、幽斎は明智光秀の誘いを断り、秀吉と手を結ぶ。細川家は明智家と親戚関係にあり、丹後時代の幽斎は光秀の指揮下にいたので、ギリギリの判断だったろう。光秀に味方した武士たちは没落しており、幽斎の政治を見る目の確かさを感じる。

Ⅳ

江戸時代の「天下泰平」は、秀吉の天下統一の基本施策「惣無事令」が基になっている。停

戦と豊臣政権による領土裁定を大名らに受け入れさせる施策だが、秀吉がこの惣無事の原則を九州に及ぼす際にも、幽斎は大変な働きをしている。

薩摩の島津氏を豊臣大名として従属させるため、秀吉は歌学と茶の湯のトップだった幽斎と千利休を利用。歌学に関心の高かった島津義久は最終的に、幽斎から古今伝授の講義を受けることとセットで、豊臣の秩序に組み込まれることを受け入れている。

秀吉の惣無事の秩序を総仕上げして江戸幕府を作ったのが家康だ。この最後の段階でも、幽斎が保持していた室町時代からの武家社会の秩序と文化の知識、人脈が必要とされた。このように、秀吉の体制を九州に広めるとともに、天下泰平を長期維持する江戸幕府体制が確立されるまで、幽斎は大きな働きをした。その意味で天下泰平を作り上げた影の立役者は、幽斎だろう。

V

200年以上続いた平和状態によって、日本の近世においては、経済や産業、思想、地域自治など諸方面で民間社会の成熟が実現された。この成熟がなければ、19世紀に日本は植民地化され、アジアと日本の近代史は全く異なったものになったと思う。そのような意味でも、日本の歴史上、幽斎が果たした役割は極めて重要なものだったといえる。

3）熊本県立美術館　講座細川コレクション講演

平成22年11月27日

細川幽斎の古典研究（要旨）

森　正人

細川幽斎の生涯とその時期区分

細川幽斎の生涯については、その学芸活動に注目して次のように区分するのが適切であろう。前期は、天正10（1582）年、49歳までの藤孝時代。青壮期、学修期。後期第1期は、文禄3（1594）年までの50～61歳の間、幽斎と名乗り領国経営の第一線を退き、学芸に専念する。拡充期に当たる。後期第２期は文禄4年から慶長15（1610）年、77歳で没するまで。古典学の集成（注釈書の著述と講釈）に携わる伝授期。

前期（藤孝期）における学芸環境と活動

弘治・永禄初年の文芸活動はもっぱら連歌で、この頃の藤孝奥書本もほとんどが連歌関係書である。近衛家の人々と交流し、連歌・和歌関係書を借り出し書写し、譲渡されている。また京都を離れ足利義昭擁立を図っていた頃、有職故実書の書写・蒐集を心がけている。織田信長の麾下に入って後、三條西実澄（実枝）から古今伝授を受けるも、歌学書の借用、書写は困難であったらしい。

後期（幽斎期）第１期における学芸活動の特色

天正16（1588）年、九条稙通より源氏物語秘説を伝受し、翌年、三条西家の花鳥余情、河海抄を書写するなど、源氏物語の研究が本格化する。中院通勝に源氏物語注釈の作成を勧奨し、それは岷江入楚として結実する。また、時期不明ながら、自らも源氏物語を書写し、細字で注を書き入れている。

後期（幽斎期）第２期における学芸活動の特色

文禄4（1595）11月上旬、幽斎が後陽成天皇に献上した詠歌大概抄が書写され返却を受けた。これ以降、文禄5（1596）年2月15日、伊勢物語闕疑抄に奥書、慶長元（1596）年12月晦日、百人一首抄（幽斎抄）に奥書するほか、家族や弟子に古典の講釈をしばしば行っている。歌学の第一人者としての地位を確かなものとしていた。

古今伝授（受）と幽斎像

幽斎の三回忌に制作された細川幽斎像は、心もち顔をあげ遠くを見やる風情、右膝を高くし、そこに団扇を持つ右手を置く。この姿勢は、宗祇像、肖柏像、さらには柿本人麿像を象ったものと見られる。柿本人麿は歌聖と仰がれ、その像は、しばしば和歌の儀式の場に掛けられた。古今の切紙伝授（受）の座敷にも用いられている。こうして、その像容は、幽斎が古今和歌集の秘説の伝授（受）者であることを示すものであった。

5．研究員の年間活動

稲葉継陽

各種委員会

人吉城跡調査検討委員会委員、佐敷城調査検討委員会委員、陣ノ内館調査検討委員会委員、宇土城調査検討委員会委員、甲佐町史編纂委員会委員、西原村史編纂委員会委員、荒尾市史編纂委員会委員

著作

稲葉継陽「近世化論の可能性」藤木久志・服部良久・蔵持重裕編『紛争史の現在』高志書院、pp.67－90、2010年。

「中世（戦国時代）の西原」『西原村誌』2010年。

「中世後期における共同体的規律化と近世の国制―服部良久『アルプスの農民紛争』に学ぶ―」『歴史学研究』871、pp.35－37、2010年。

Community Vitality in Medieval Japan. War and State Building in Medieval Japan, edited by John A. Ferejhon and Frances McCall Rosenbluth, pp.71－90 Stanford University Press 2010.

「永青文庫の織豊期文書」熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編『永青文庫叢書 細川家文書 中世編』、pp.333－348、吉川弘文館、2010年。

講演会

「加藤清正と熊本の歴史資料―豊臣期大名加藤清正と人間清正のあいだ―」九州博物館協議会総会講演、2010年5月27日、熊本県立美術館、「日本近世の社会構造と歴史資料」2010年6月10日、ボルドー第三大学、「戦国時代の益城郡」塚原歴史民俗資料館講座、2010年7月18日、塚原歴史民俗資料館、「14～16世紀甲佐地域の城と「陣ノ内館跡」

甲佐町生涯学習センター事業講演会『新発見！こうさのお城!!』、2010年8月20日、甲佐町生涯学習センター、「細川幽斎と信長・秀吉・家康」講座 細川コレクション、2010年10月9日、熊本県立美術館、「細川幽斎と天下統一」水前寺まつり実行委員会主催「細川幽斎公没後400年記念シンポジウム」、2010年10月17日、鶴屋ホール、「永青文庫所蔵 信長文書の魅力」第5回永青文庫セミナー、2010年10月30日、放送大学熊本キャンパス、「豊臣大名加藤清正と人間清正のあいだ」第27回 九州教区檀信徒研修道場、2010年11月5日、ホテルニュースカイ、「永青文庫「細川家資料群」の歴史的位置とこの間の活動」火曜会論説責任者会、2010年11月19日、熊本日日新聞社

川口恭子

各種委員会

熊本県文化財保護審議会委員、熊本市文化財保護委員会委員

講演会

「熊本大学における永青文庫研究について」平成22年4月8日　熊本大学同友会例会、「細川家史料について」平成22年５月26日　熊本さわやかシニアくらぶ、「細川家の女性たち」平成22年７月20日　熊本市歴史文書資料室

講座

「古文書講座」 現代美術館会議室　月２回、主催：熊本城400年と熊本ルネッサンス県民運動本部、「古文書を読む（初級）」月２回　NHK 文化センター熊本教室、「古文書を楽しむ」 月２回　NHK 文化センター熊本教室

北野　隆

各種委員会

熊本市文化財保護委員会、大分市文化財保護審議会、人吉城整備検討委員会、岡城整備検討委員会、宇土城整備検討委員会、臼杵城整備検討委員会、勝尾城整備検討委員会、熊本城復元検討委員会

講演会

「川尻御茶屋と御蔵」川尻文化を考える会：平成22年５月16日、川尻公会堂、「水前寺成趣園―大名庭園」：放送大学熊本学習センター、平成22年７月18日、「よみがえる熊本城」：日本電気学会、平成22年９月２日、熊本大学工学部百周年記念館、「佐敷城と薩摩街道の文化財」熊本県文化財保護協会、平成23年1月19日、芦北町地域活性化センター

甲元眞之

各種委員会

熊本県文化財保護委員会、熊本市文化財保護委員会、文化庁「発掘調査の手引き」作成委員会、西南戦争遺跡調査検討委員会、陣の内館調査検討委員会、宇土市馬門石関係遺跡調査検討委員会。

論文

「砂丘の形成と考古学資料」『坪井先生卒寿記念論文集』PP.619－625、平成22年

その他

「センター長挨拶」『熊本大学文学部附属永青文庫研究センター年報』第1号、pp.25-26、平成22年、「前島さんの思い出」『雪の下に咲く花』p.107、前島己基氏追悼集刊行会、「永青文庫研究センターの活動は今」『熊本ルネッサンス』20号、p.6、平成22年年、「細川幽斎展開催にあたって」『細川幽斎展』熊本県立美術館、「跋文」『細川家文書　中世編』pp.349-350 、吉川弘文館、2010年、「跋文」『絵図・地図・指図編Ⅰ』pp.349- 350 、吉川弘文館、

2011年

講演会

熊本経済同友会「永青文庫資史料の重要性」ホテルキャッスル、平成22年7月28日、熊本県文化財保護協会「永青文庫研究センターの活動」熊本県庁、平成22年11月11日

高濱州賀子

各種委員会

熊本市文化財保護委員会委員、大分市美術館収集委員

非常勤講師

熊本大学教育学部非常勤講師、崇城大学芸術学部非常勤講師

論文

「細川幽斎と芸能」『没後400年・古今伝授の間修復記念　細川幽斎展』図録2010年、熊本県立美術館

書評『小西行長―「抹殺」されたキリシタン大名の実像―』（2010年2月21 日、熊本日日新聞）

徳岡　涼

非常勤講師

熊本大学教養教育実施機構、熊本県立大学文学部

論文

「細川幽斎はいかに源氏物語を読んだか」『細川幽斎　戦塵の中の学芸』平成22年９月 pp.208－226

「細川幽斎年譜」pp.358～395同上　（稲葉継陽氏と共著）

「幻巻の源氏と明石君の贈答歌について」『国語国文学研究』第46号、pp.32―45 平成23年2月

講演会

「古今集と古今伝授について」熊本歌人協会総会、平成22年10月11日、崇城大学市民ホール大会議室、主催：熊本歌人協会、「源氏物語の桜と紅葉」熊本市立図書館郷土史講座、平成22年11月12日、熊本市立図書館ホール、主催：熊本市立図書館

講座

「平安文学（源氏物語）」於びぷれす熊日会館・月2回、熊本公徳会、「古今和歌集を読む」びぷれす熊日会館・月2回・熊本公徳会

その他

『熊本県高等学校　教育研究図書館部会・文化連盟図書部　平成22年度　会報』「『源氏物語』の「いろ」と「ことば」」平成22年６月、「熊本日日新聞　くまにち　美齢世代」「古今のいろは」平成22年９月７日、熊本県立美術館『没後400年、古今伝授の間修復記念　細川幽斎展』図録解説（分担）、平成22年９月『第27回熊本大学附属図書館貴重資料展　若き日の細川幽斎』パンフレット解説（分担）

森　正人

各種委員会

人間文化研究機構教育研究評議員、人間文化研究機構総合研究推進委員会委員

編著書

『細川幽斎　戦塵の中の学芸』（共編著）笠間書院、416 pp. 平成22年

論文等

「若き幽斎の学芸環境 第一回」『熊本ルネッサンス　熊本城四〇〇年』vol.19、別紙 pp.1－4、平成22年7月

「若き幽斎の学芸環境 第二回」『熊本ルネッサンス　熊本城四〇〇年』vol.20、別紙 pp.1－2、平成22年9月

「〈もののけ〉考―源氏物語の読解に向けて― 」『夢と物の怪の源氏物語』翰林書房、pp.51－70、平成22年10月

「細川幽斎の古典研究」『没後400年・古今伝授の間修復記念　細川幽斎展』熊本県立美術館、pp.105－113、平成22年10月

「細川幽斎の歌学と肖像」『公徳』第19号、pp.60－69、平成22年12月

「鏡にうつる他者としての自己－夏目漱石・芥川龍之介・遠藤周作・村上春樹－」『国語国文学研究』第46号、pp.46－57、平成23年２月

講演会

「細川幽斎の武略と学芸」、平成22年５月18日、鶴屋会、「若き幽斎の学芸環境」、平成22年５月22日、「熊本城四〇〇年と熊本ルネッサンス」県民運動本部「古典文学と鏡―『大鏡』と『今昔物語集』の「鏡知らず」説話を中心に―」、平成22年11月14日、放送大学熊本学習センター、「細川幽斎の古典研究」、平成22年11月27日、講座細川コレクション、熊本県立美術館

その他

『没後400年・古今伝授の間修復記念　細川幽斎展』「図版・解説」（分担）熊本県立美術館、平成22年10月

『第27回熊本大学附属図書館貴重資料展　若き日の細川幽斎―永青文庫蔵・織田信長文書

を中心に―』（分担）熊本大学附属図書館・熊本大学文学部附属永青文庫研究センター、p8.　平成22年10月

吉村豊雄

論文

「一九世紀の新地開発と水利土木事業」『文学部論叢』102号、熊本大学文学部、pp.157－183、2011年

「幕末期熊本藩領における広域的経済開発事業の展開」『熊本史学』93・94号、熊本史学会、pp.85－110、2011年

「近世の西原」『西原村誌』2010年

講演

「細川家分家の深層を探る」講座細川コレクション、平成22年5月29日、熊本県立美術館、「幕末の街道と参勤交代の終焉」第三回肥後四街道の顕彰会記念講演、平成22年６月２日熊本市国際交流会館、「水利土木史にみる宇城・美里地域」平成22年度宇城文化財研究会、平成22年６月28日、宇土市民会館、「最新の加藤清正研究を語る」平成22年度熊本市立博物館特別展「よみがえる清正」特別講演、平成22年７月24日、熊本市立博物館、「加藤氏から細川氏へ」熊本市歴史講座、平成22年９月21日、熊本市役所花畑別館、「三つの八代城と妙見祭」放送大学公開講演会、平成22年10月2日、八代ハーモニーホール、「加藤清正研究の最前線」平成22年度九州教区檀信徒研修道場講義、平成22年11月5日、ニュースカイホテル

その他

「真の『開国』とは」熊本日日新聞、平成22年12月17日

永青文庫研究センター年報
第２号（平成22年度）
発行日：平成23年３月31日
発行者：熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター
〒860－8555
熊本市黒髪2－40－1
TEL 096－342－2304
印刷所：シモダ印刷株式会社